

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

平塚市教育委員会

## 1 はじめに

令和3年5月に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心をもっていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域と連携し、一体となって平塚市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部を測定したものであり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。この調査結果を本市の児童生徒の学力や学習状況を把握する資料の一つであると捉え、児童生徒一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

市民の皆さまにおかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨を御理解いただくとともに、本市の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効に御活用いただきますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

### ○調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・これらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### ○調査実施日

令和3年5月27日（木）

### ○調査対象

小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

### ○調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

<児童生徒に対する調査>

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

<学校に対する調査>

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### 3 教科に関する調査について

#### ◎教科別調査結果

<小学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	8.5 問 / 14 問	61%	9.0 問	3.3
算数	10.5 問 / 16 問	66%	11.0 問	3.6

<中学校>

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	9.0 問 / 14 問	64%	9.0 問	2.8
数学	9.1 問 / 16 問	57%	9.0 問	3.7

<用語説明>

平均正答数：児童生徒の正答数の平均。( / の右側は総問題数)

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。  
平均値とともに集団における代表値として捉えられる。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。  
標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値が全て同じ)ことを意味する。

#### ◎各教科の結果の概要

〔 グラフ(レーダーチャート)は各教科の領域・観点・問題形式別に表したもの  
◇…多くの児童生徒ができていない内容 ◆…課題が見られる内容 〕

#### 【小学校国語】

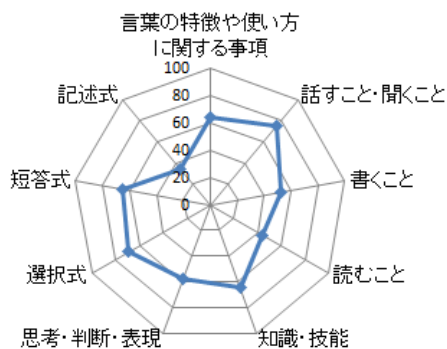
今回出題された学習内容に関して、本市の正答率は全国をやや下回っている。

内容別に見ると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全国の正答率をやや下回り、「書くこと」については、全国の正答率を下回っている。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率をやや下回り、「短答式」「記述式」については、全国の正答率を下回っている。特に、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国をやや上回っている。



◇思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う。

◆目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。

◆目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。

### 【小学校算数】

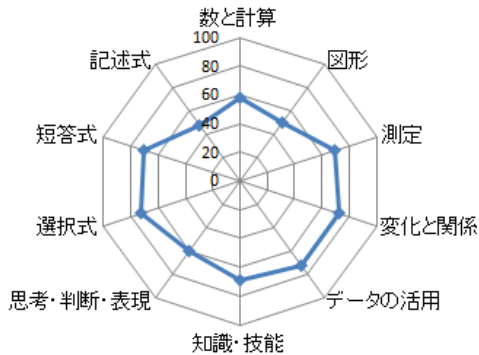
今回出題された学習内容に関して、本市の正答率は全国をやや下回っている。

領域別に見ると、「測定」「変化と関係」「データの活用」については、全国の正答率をやや下回り、「数と計算」「図形」については、全国の正答率を下回っている。

観点別に見ると、どちらの観点についても、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」については、全国の正答率をやや下回り、「短答式」「記述式」については、全国の正答率を下回っている。特に、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



- ◇棒グラフから、数量を読み取ることができる。
- ◇棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。
- ◇条件に合う時刻を求めることができる。
- ◆三角形の面積の求め方について理解している。
- ◆複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。

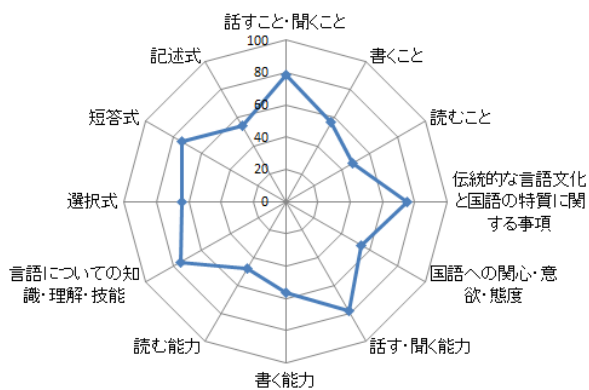
### 【中学校国語】

今回出題された学習内容に関して、本市の正答率は全国と同程度である。

領域等別（観点別）に見ると、「書くこと（書く能力）」「読むこと（読む能力）」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）」については、全国の正答率と同程度であるが、「国語への関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと（話す・聞く能力）」については、全国の正答率をやや下回っている。

問題形式別に見ると、「選択式」「短答式」については、全国の正答率と同程度であるが、「記述式」については、全国の正答率をやや下回っている。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



- ◇質問の意図を捉える。
- ◇文脈に即して漢字を正しく読む。
- ◆文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ。
- ◆書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。

## 【中学校数学】

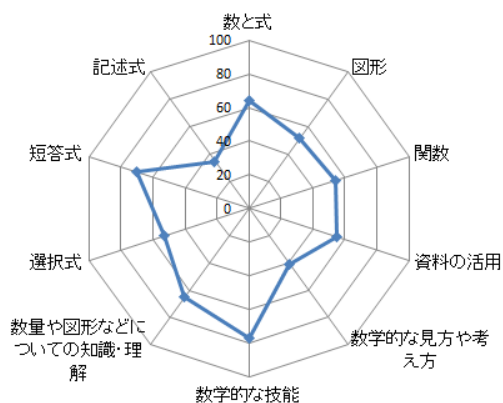
今回出題された学習内容に関して、本市の正答率は全国と同程度である。

領域別に見ると、「資料の活用」については、全国の正答率をやや上回っているが、「関数」については、全国の正答率をやや下回っている。

観点別に見ると、全ての観点について、全国の正答率と同程度であるが、「数学的な見方や考え方」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

問題形式別に見ると、全ての形式について、全国の正答率と同程度であるが、「記述式」については、正答率が5割未満であり、課題があると考えられる。

なお、無解答率については、全国と同程度である。



◇与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。

◇与えられたデータから中央値を求めることができる。

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

◆データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

## 4 児童生徒質問紙調査について

### ＜生活習慣や学習環境等に関する調査結果＞（抜粋）

質問内容	小学校		中学校	
	平塚市立	全国公立	平塚市立	全国公立
朝食を毎日食べている。	93.8%	94.9%	90.6%	92.8%
毎日、同じくらいの時刻に起きている。	87.9%	90.4%	90.9%	92.7%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	78.4%	81.2%	75.9%	79.8%
学校の授業時間以外の普段(月～金)、1日当たりの勉強時間が、2時間以上。	22.1%	26.9%	51.9%	41.8%
学校の授業時間以外の普段(月～金)、1日当たりの勉強時間が、30分未満。	20.1%	13.0%	11.4%	9.9%
家で、自分で計画を立てて勉強をしている。	71.7%	74.0%	64.0%	63.5%
学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日あたり10分以上、読書をする。	55.6%	61.2%	41.2%	50.1%
今住んでいる地域の行事に参加している。	54.2%	58.1%	40.3%	43.7%
学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	73.6%	78.8%	75.5%	77.8%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.6%	96.8%	95.4%	95.9%
自分には、よいところがあると思う。	75.7%	76.9%	72.0%	76.2%

将来の夢や目標を持っている。	79.8%	80.3%	66.2%	68.6%
人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.1%	95.5%	93.5%	95.0%

※数値には、「どちらかといえば」「時々」を含む。

### <教科に関する調査結果と質問紙調査結果の関係>

※児童生徒質問紙の質問の回答状況と各教科の調査結果を比べ、相関関係（2つの項目の間の何らかの関係性）が見られたものを抜粋。（必ずしも因果関係を示したものではない。）

◎次のような児童生徒に、正答率が高い傾向が見られる。

#### 【基本的な生活習慣等】

- ・朝食を毎日食べている。

#### 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】

- ・自分には、よいところがあると思う。
- ・自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。
- ・自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる。
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。

#### 【学習習慣、学習環境等】

- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり勉強をする時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）が長い。

#### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え〔自分と同じところや違うところ〕を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。
- ・5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
- ・学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

#### 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】

- ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

#### 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）】

- ・国語の勉強は好きだ。
- ・国語の勉強は大切だと思う。
- ・国語の授業の内容はよく分かる。
- ・国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている。
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている。
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように〔自分の考えが伝わるように根拠を明確にして〕書いたり表現を工夫して書いたりしている。
- ・国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、〔内容を解釈して〕自分の考えを広げたりしている。
- ・今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題があり、最後まで解答を書こうと努力した。

#### 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

- ・算数〔数学〕の勉強は好きだ。
- ・算数〔数学〕の授業の内容はよく分かる。
- ・算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思う。
- ・算数〔数学〕の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。
- ・算数〔数学〕の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- ・算数〔数学〕の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- ・算数〔数学〕の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いている。
- ・今回の算数〔数学〕の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（解答を言葉や数、式を使って説明する）問題があり、最後まで解答を書こうと努力した。

※【 】は、「令和3年度全国学力・学習状況調査報告書」（令和3年8月文部科学省 国立教育政策研究所）による分類

## 5 今後に向けて

市教育委員会では、本市の児童生徒が確かな学力を身に付けていくため、本調査結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に提供しました。各学校では、本市全体の結果分析を踏まえ、各学校の調査結果の多面的な分析と検証を行い、自校の良さや課題を踏まえた取組を学校全体で組織的・継続的に進めていくことが重要であると考えます。市教育委員会として、各学校が、児童生徒一人一人に応じたきめこまやかな指導の充実を図ることができるよう、各学校の状況に応じ、必要な指導や支援を行ってまいります。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大まん延防止のための一斉休業もあり、本調査は行われなかったため、今年度は二年ぶりの調査となりました。前回行われた平成31年度（令和元年度）調査から、知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという新学習指導要領の趣旨を踏まえて、知識と活用を一体的に問うものになっています。

本市全体の調査結果を見ると、小学校では、国語・算数共に全国をやや下回る正答率だったものの、中学校では、国語・数学共に全国とほぼ同程度の正答率となりました。昨年度は一斉休業もあり授業時数の確保に苦慮しつつも、感染対策を講じながら各学校で工夫しながら指導を行ってきました。前回調査と比べても平均正答率が大きく変動することはなく、一斉休業による本市児童生徒の今年度の調査結果との相関関係は見られませんでした。

本調査からは、児童生徒が自分の考えを深め、話し合いの際には相手の意見を受け止めて自分の考えを広げるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動ができる児童生徒ほど、学力の定着との関わりが見られると考えられます。児童生徒が、自ら課題意識をもって根気強く、仲間とともに切磋琢磨しながら主体的に学習に取り組めること、そしてそこにはお互いを認め合える人間関係があり、児童生徒が安心して学べるような教育活動を各学校ですすめていくことが大切だと考えます。

市教育委員会としては、教員対象の各種研究会や学校訪問等を通じて上記のような指導方法の工夫や改善について学校に働きかけ、分かる授業、魅力ある授業づくりに向けたさらなる啓発と支援に努めてまいります。

平成29年3月に改訂された新しい学習指導要領は、小学校では令和2年4月、中学校では令和3年4月に全面実施されました。これまでも新しい学習指導要領の基本的な考え方とともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、評価の仕方等を含めた研修会を行ってきましたが、今後も各学校の教育活動が円滑に実施されるよう、管理職の研究会や各種担当者会において、必要な研修を行ってまいります。

児童生徒の確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。今後とも、市民の皆さまの学校教育・家庭教育への御理解と御支援・御協力をよろしくお願いいたします。